

遊楽祭

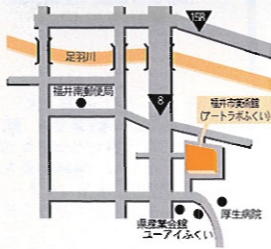
三谷市民文化振興財団ニュース



池田水海田楽能舞は、毎年、2月15日に池田町水海の孫甘許社で行われる。

田植えを盛り上げる田植歌に囃子がついて田植楽、豊作祈願の田楽となり、能舞と型をひとつにする。池田町に伝わる池田水海田楽能舞は、現代舞台芸術の道標として今も池田の地で舞い続けられている。

福井市美術館



外壁のほとんどがガラス、曲線をいかした有機的な形が目目を引く美術館。随所にある不思議な空間を活かした大胆でユニークな展示が行えるほか、福井市ゆかりの彫刻家高田博厚の作品が収蔵、常時展示されている。CD-ROMが閲覧できる情報交流室、市民が自由に創作活動ができるアトリエもある。自然光がふりそそぐ空間で見る・描く・つくることが体験できる。

<お問い合わせ先> 福井市美術館 〒918-8112 福井市下馬3-1111 ☎0776-33-2990

財団法人 三谷市民文化振興財団

〒910 福井県福井市豊島1-3-1 三谷ビル TEL0776-20-3188 FAX0776-25-3911

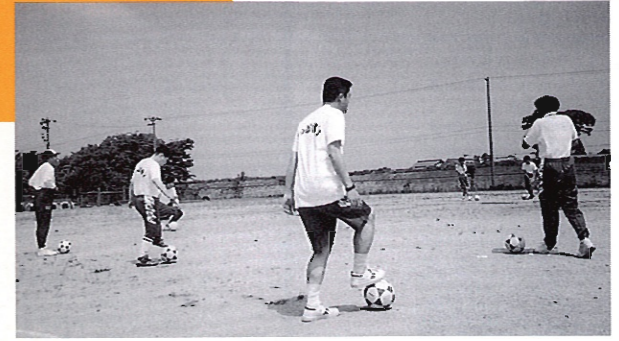
財団法人三谷市民文化振興財団は、ボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の支援を目的として作られた財団です。毎年5月に助成団体を広く募集しています。この遊楽祭々(毎年1回発行)は、県内で活躍する人やグループ、各地で企画されているイベントを紹介し、ボランティア活動、スポーツ活動、市民活動のネットワーク化、活性化の促進を目的としています。
http://www.milene.or.jp/m-zaidan/

1998・12月発行

このニュースに関するお問い合わせは、TEL0776-33-7571 (株)コミネットまで

三谷市民文化振興助成団体

様々な場面でイキイキと活動するグループを紹介します。



連絡先 知的発達障害児・者スポーツ教室「あっぱれ's」
馬橋☎0776-54-9591 山村☎0776-23-7100 志田☎0776-56-3534

知的なハンディを持つ人たちが、スポーツを通して社会参加をしていくこと、そしてなによりスポーツを楽しむことを目的に発足したのが「あっぱれ's」。

最近人気の高いサッカーは障害を持つ子供たちにとっても大変に魅力的なスポーツ。「彼らにサッカーをさせてあげたい」と、練習場の提供と理解ある指導者を各方面にお願いした結果、学校の校庭や体育館の使用許可と用具を借りて、平成7年にスタートした。

現在、会員は18名、養護学校の生徒、授産施設に通う人たち、入所施設にいる人たち、企業に就労した人たちが、月に一度の集まってくる。個人差はあるが、確実にサッカー技術は向上している。発足当初は足元もおぼつかなかった子どもたちが、いまではボールを自由自在に操る。目標は、会員を増やし、練習試合をすること。そしてJリーグの公式戦を観戦すること。子供たちは、今日もいつか実現するだろう試合に向けて、汗を流している。

スポーツを通して社会参加を目指す
知的発達障害児・者スポーツ教室
「あっぱれ's」
(福井市)



連絡先 福井オペラ研究会 鈴木 ☎0776-54-8911

会の結成のきっかけは、2年前に開かれた福井オペラコンサート。出演者の間で「オペラを勉強し、上演し続けたい」という声があちこちであがった。そして、この会は産声をあげた。「オペラを演じる」とひとことでもいってもそう簡単にはいかない。一番たいへんだったのが、練習時間の調整。会員は20人弱。教師、自営業などメンバーの職業も多種多様。休日も違えば、勤務時間もまちまち。練習場を確保しながら、会員のスケジュールの調整には、特に苦労した。

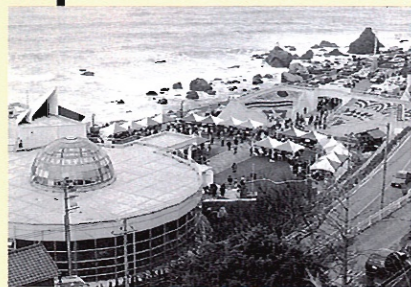
研究会の会員には声楽家以外にピアニストも参加している。ヨーロッパのオペラハウスにはコレペティトウアと呼ばれるオペラの伴奏をするための専属ピアニストがいる。そんなピアニストを育てるためだ。

「オペラは音楽、演劇、舞踏などの芸術が合体した総合芸術。みなさんにオペラを見て、聞いて、楽しんでもらえるように頑張りたい」と熱い思いを語ってくれた。

多くの人にオペラの楽しさを伝えたい
福井オペラ研究会
(福井市)

CULTURAL PRESS

第24回水仙まつり
1/9(土)~2/11(祝)
越前町、河野村、越前村
福井県の県花でもある水仙の花が美しく咲き乱れる。1月2月各町村にて、様々なイベントが催される。水仙の切り花のサービスもある。
(問)越前町観光協会 ■0778-37-1234
こしの観光協会 ■0776-89-2210
河野村観光協会 ■0778-48-2240



チベットを語る
チベットを歌う
1/10(日)
若狭図書学習センター(小浜市南川町)
'94年の来日以来、関西を中心に全国で幅広い活動を続けている日本ただ一人のチベット人歌手、ハイマヤンジン。彼女によるチベット文化の紹介とチベット民謡を中心とした歌のライブ。
14:00~ 参加費無料
(問)福井県立若狭図書学習センター
■0770-52-2705



MAFF第3回公演「ゴジラ」
1/17(日)
みくに文化未来館(三国町神明)
週1回の練習を重ね、演劇の楽しさを知り常に挑戦し続けるMAFFのスタッフ。3回目の公演は「ゴジラ」。伊豆大島で平凡な家庭に育った娘とゴジラとのラブコメディ。世界的ヒーローと娘の恋の結末は・・・
14:00~ 一般800円(当日1000円)、高校生以下500円(当日600円)
(問)みくに文化未来館
■0776-82-7200

年の市
1/24(日)
勝山市本町通り
300年あまりの伝統を誇る勝山の冬の風物詩。旧正月を迎えるために、山村の人々が手作りの品物を作り、



帰りは街で正月用品を買って帰るといふ素人商人の市がはじまり。神棚の縁起物やめ簗等台所用品まで、路上には様々な品物が並ぶ。お店の人とのやりとりにも活気あふれる。
(問)本町商店街振興組合
■0779-88-0295

しんせつ池田 能楽の里冬まつり'99
2/21(日) 10:00~16:00
新保ファミリースキー場(池田町新保)
テーマは「冬の味! 美味しく...楽しく...あったかく...」。目が離せないステージイベントや、スノーモービルに乗ることができる雪国体験広場。冷えきったからだにはとてもありがたい、大シシ鍋が無料でふるまわれる。その他、地元の特産物などの即売会もある。
(問)池田町振興開発課
■0778-44-6111

「禪刹・永建寺」展
2/2(火)~3/7(日)
室町時代、加賀永安寺ゆかりの少室真宗によって開かれて以来、敦賀市内有数の曹洞宗寺院として信仰を集め、また僧侶の修行道場として、長い歴史を誇る。ゆかりの名僧も多く、最近では曹洞宗の総本山永平寺の73世貫主となった熊沢禪師が永建寺から出ていく。由緒ある永建寺の歴史と文化を、市指定文化財である永建寺文書を基に、禅僧の書、絵画、写真その他文化財を通して紹介する。
(問)敦賀市立博物館
■0770-25-7033



奇祭 アップッシャー
2/6(土)
越前村
この日の夜には、静かな村に家々の玄関をドンドンたたく音が響く。この行事は秋田県のなまはげに似て、鬼の面を付けて「サククリ」という作業服を着た男が、茶釜のふたをたたき、「アップッシャー、アップッシャー」といいながら、行儀の悪い子を威嚇していく。真っ赤な面には、大きく見開いた目と、耳まで裂けた口が描かれている。
(問)越前村役場 ■0776-89-2111

行ってみよっさハローワールド
~もっと知りたい、アフリカ~
2/12(金)~2/21(日)
福井県国際交流協会(福井県宝永)
アジア、南米、ヨーロッパに続いて、4回目はアフリカ各国をご紹介します。県内在住のアフリカ人によるパネル展示やアフリカのおやつなど、10日間に渡って、アフリカの文化を紹介することができます。またビデオ上映会等が行われるので、気軽に異国文化にふれることができます。
(問)(財)福井県国際交流協会
■0776-28-8800

ウィーン・フィルハーモニア・シランメルン
2/14(日)
ハートピア春江(春江町西太郎丸)
27年前にウィーン・フィルのヴァイリニスト、アルフォンス・エッガーを中心に結成され、民謡などの庶民の音楽を芸術にまで高めた。日本でもおなじみのアンサンブルだ。ウィーン民謡などが楽しめる。



14:00~ 全席指定席
一般3000円、高校生以下2000円
(問)ハートピア春江
■0776-51-8800



岩城宏之のおしゃべり
パーカッションライブ
2/28(日)
ハーモニーホールふくい(福井市今市町)
福井県の音楽アドバイザーである指揮者・岩城宏之氏が司会をつとめる。ゲストには、ピアニストの木村かをり、松井晃子と、打楽器奏者の渡邊昭夫がやってくる。「ハーモニーホールふくい」誕生のエピソードなど、とても楽しい話題がいっぱいのコンサート。岩城宏之氏の素顔に迫る。
15:00~ 全席自由席 一般3000円
(問)ハーモニーホールふくい
■0776-38-8288

劇団ひとみ座
人形芝居「ゲゲゲの鬼太郎」
3/14(日)
みくに文化未来館(三国町神明)
テレビアニメでおなじみのゲゲゲの鬼太郎が人形芝居に。舞台は、鬼太郎と仲間妖怪たちが一致団結して悪者と戦う大活劇。妖怪刑部狸のムムム爆弾とは?黒川首相の企みとは?あやうし鬼太郎!
14:30~入場料1000円(当日1200円)
親子ペア1800円
(問)みくに文化未来館
■0776-82-7200



第14回永平寺参道マラソン大会
3/14(日)
曹洞宗大本山永平寺の修行僧たちがたどった旧参道を、厳しい寒さの中残雪を眺めながら走り抜ける北陸を代表するマラソン大会。開祖、道元禅師の教え「禅の道」を参加者に体験してもらう。
申込期間 1/4(月)~2/5(金)
(問)永平寺参道マラソン実行委員会事務局
■0776-63-4222

FBCスペシャルコンサート
由紀さおり・安田祥子
童謡コンサート「歌うた唄vol.3」
3/22(月)
ハーモニーホールふくい(福井市今市町)
童謡歌手として人気ナンバーワンの由紀さおり・安田祥子姉妹による心温まる童謡コンサート。昔懐かしい童謡を、二人の美しく透明感のある歌声で歌い上げる。ホール内いっばいにぬくもりあたたかさが広がる。
15:00~
S席5000円、A席4000円、B席3000円。
(問)ハーモニーホールふくい
■0776-38-8288

谷村新司 LA STRADA II - 羅盤 -
4/12(日)
福井フェニックスプラザ(福井市田原町)
「昂」「サライ」など21世紀に伝えた歌の数々を熱唱する谷村新司。ハートフルな歌声を堪能したい。
18:30~
全席指定 S席6500円、A席6000円。
(問)キョードー北陸
■076-260-0999

草木染織展
4/22(木)~4/27(火)
生協会館1Fひろば風(福井市宝永)
日常生活のなかで使える用の「美」ということをいつも念頭に置いている石川雅夫さん・美智子さんによる草木染織作品展。環境への配慮につながる自然素材を使った染織で染めた、服や敷物、のれんやストールなどが展示される。
(問)ひろば風(生協会館)
■0776-27-0626

越前漆器まつり
5/3(月)4日(火)
越前漆器伝統産業会館(鯖江市西袋町)
1500年の歴史と伝統を誇り、塗り重ねた光沢に、優雅な美を感じさせる越前漆器。実演コーナーや大漆器市、まき絵・沈金などの漆器の装飾技法もチャレンジできる。またステージイベントでは「冠二郎の歌謡ショー」などが催される。
(問)越前漆器協同組合
■0778-65-0030



押し花アート作品展
5/13(木)~5/18(火)
毎年恒例のクリエイティブ押し花倶楽部のインストラクターによる、押し花額と小物の展示会。約50点もの作品が並び、押し花の体験会もある。
(問)(株)ハンスナトリエ企画
■0776-26-7811



プロフィール

みたむらまつえ 1941年、福井県生まれ。学生の時、着物の美しさに魅了され、24才で着付け教室を始める。1957年、簡単にできる着付けができる「小町流」をつくり、着物の普及活動を行う。現在も、着物の興味は尽きず、着付け、踊り、演劇、講演と多忙な毎日を送る。

年に最低一度は、十二単の着付けも行方。着付けをするたび気持ちが高揚する。

**日本の民族衣装「きもの」を
若い世代に受け継いで欲しい
三田村まつえ**

MATSUE MITAMURA

「私、きもの話をし始めたなら止まらないんですよ」とおもしろく笑う。日本の文化を代表する民族衣装としてのきものを、もっと大切にしたい若い世代に受け継いで欲しい。そんなきものに対する熱い思いが、三田村の活動のエネルギー源になっている。魅力あるきものを、日本文化の貴重な財産として一度見直して欲しいと、「腰ひも一本」と「だて巻?本」だけできものを着る「小町流」着付けを広げて31年になる。きものを文化として残したいと、古きものも集め始めて26年、その数は千枚を超える。また、「笑門」には健康を「持」で、「きもの魅力」をみなさんにわかっただけでなく、きものを着て踊るアマチュア劇団「お笑い舞踏劇団笑路座」を結成して10年。この12月に26回目の公演を無事成功させた。

三田村さんがきもの魅力にとりつかれたのは子どものころのある祭りの夜だった。「普通のオバサン」と思っていた叔母が、きもの姿で現れて、もうそれが素敵で、神々しいほどの美しさだった。そして、人のイメージをガラリと変えてしまうきものというものにひと目ぼれ。「きものを着ると、人の動きや表情が変わってしまう。きものには、魔法の力があるんですね。」

以来、きものへの興味は尽きることなく、デザインだけでなく、その歴史や文化まで勉強するうちに、ますますきものに魅せられていった。きものにまつわる話を聞いたら、三田村の右に出るものはおそらくないだろう。

「袖の下、上前をはねる、袖ふれあつても多生の縁、しつけ正しいとか、ほかにもいろいろあるけど、きもの由来していることばはいっぱい」。きもの歴史や文化との関わりを、作法、さまざまなエピソードなどを話す、ユーモアたっぷりの独特の語り口は好評で、さまざまな舞台で講演し、きもの魅力を伝導し続けている。

「仕立て直し、染め直しをして、母から娘、またその娘へ、きものは世代を超えて想い出と一緒に受け継がれていく。すごいじゃない?」

一人で着られない、動きにくい、堅苦しい、値段が高いという理由で忘れられようとしているきものを、日本文化として次の世代に伝えるためにさまざまな試みを行っている三田村。続けることは難しい。でもとっても大事なことで、斬新な挑戦はまだまだ続きます。